

平成27年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成28年4月1日

| | |
|---------------|--|
| 研究・研修課題名 | 専門作業療法士取得のための研修補助 認定作業療法士取得のための研修補助 |
| 研究・研修組織名（所属） | リハビリテーション部 （所属：リハビリテーション部 総括責任者 馬庭 壯吉） |
| 研究・研修責任者名（所属） | 森脇 繁登 （所属：リハビリテーション部 作業療法士） |
| 共同研究・研修者名（所属） | 佐藤 千晃, 竹内 雪絵, 吉田 朝海 （所属：リハビリテーション部 作業療法士） |

目的及び方法、成果の内容

①目 的

日本作業療法士協会は、臨床現場での実践の質の向上を目的とした「認定作業療法士」および「専門作業療法士」の資格取得を推奨している。本資格取得には、定められた研修の履修や必要な単位等を取得する必要がある。当院のような急性期病院では、作業療法を実施する上で、前述した資格を取得し、急性期において活かしていくことは、実践の質の向上のために不可欠なものである。

本研修の最終的な目標は「専門作業療法士」の取得を目指すことであるが、協会の規定から、まずは「認定作業療法士」を取得することが必要である。当院はすでに作業療法士1名が「認定作業療法士」の取得に至っている。そこで本研修は、認定取得者は専門作業療法士の取得を、そして認定未取得者は認定作業療法士取得に向けて、定められた研修の履修および必要ポイントの取得を目的とする。

②方 法

附属病院リハビリテーション部所属の作業療法士が所定の講習会および学会に参加し、必要なポイントを取得する。以下に認定作業療法士、専門作業療法士の概略を示す。

～認定作業療法士の取得要件～

- 共通研修（必須）：「教育法」「研究法」「管理運営」
- 選択研修：「身体障害領域」「精神障害領域」「発達障害領域」「老年期障害領域」
（2 講座以上の受講が必須）

■ポイント数：50 ポイントを取得

■症例報告：事例報告登録制度に 3 事例の登録

～専門作業療法士取得要件～

■認定作業療法士の取得

- 研修実践 20 単位
- 臨床実践 20 単位
- 研究実践 10 単位
- 教育と社会貢献の実践 10 単位

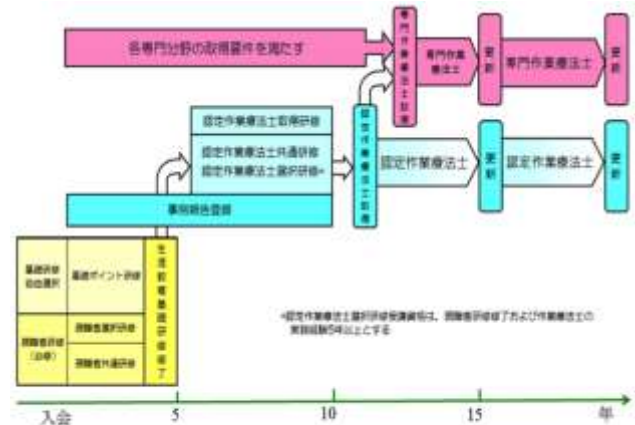


図 生涯教育制度改定2013:構造図

③成 果

- (成果) 森脇繁登 11月22日 第5回日本在宅看護学会
佐藤千晃 9月5・6日 認定作業療法士 選択研修《身体障害6》
10月31日 11月1日 認定作業療法士 共通研修《教育法6》
11月28・29日 認定作業療法士 共通研修《管理運営6》
2月27・28日 第16回日本褥瘡学会中国四国地方会教育セミナー・学術集会
吉田朝海 11月7・8日 第57回作業療法全国研修会
竹内雪絵 3月19-20日 シーティング・コンサルタント養成研修基礎過程（講義編）

(成果詳細)

平成27年9月5-6日、10月31-11月1日、11月28・29日に開催された認定作業療法士共通・選択研修に当院作業療法士1名が参加した。本研修は、原則2日間を履修し、研修会終了後の修了試験に合格しなければならない。本年度参加した研修テーマは「急性期・回復期リハビリの作業療法の介入と相互連携」と「教育法」と「管理運営」であった。1回目は9月5-6日に広島大学医学部保健学科霞キャンパスで開催され、急性期と回復期の相互連携の重要性と課題を講義とディスカッションにて学んだ。そして、2回目は10月31-11月1日に広島市のYMCA国際文化センターで開催され、学生教育と臨床教育について学んだ。また学生の臨床実習において、他施設での問題をディスカッションした。3回目は11月28・29日におかやま西川原プラザで開催され、職場の管理・運営について学んだ。組織の目標設定や個人業務を円滑化するために必要な管理方法について多くの参加者と話し合うことが出来た。いずれも少人数の研修会であったため、一人あたりの時間を十分に設けて頂き、国内各地で活躍されている先生方より、多角的な視点での意見を聞く事ができた。また各研修終了後の修了試験も全て合格することが出来た。急性期における作業療法の展開として、今回の研修会を活かしつつ、当院なりの工夫を模索しながら、患者サービスの向上に向けて引き続き臨床に励んでいきたい。なお、研修会に参加により認定作業療法士共通・選択研修を修了し、生涯教育ポイント12ポイントを取得した。

平成28年2月27・28日に岡山で開催された第16回日本褥瘡学会中国四国地方会教育セミナー・学術集会に参加した。現在、病院運営において褥瘡対策は入院基本要件にも入っており、多職種で取り組んでいかなければならない分野である。本研修会では、最近の知見やチーム内の個々の役割について多くのことを学ぶことが出来た。今後の褥瘡対策により一層力を注いでいきたい。本研修会に参加し、生涯教育ポイント2ポイントを取得した。

平成27年11月7・8日に山口県総合保健会館において開催された第57回作業療法全国研修会に参加した。今回の研修会のテーマは「作業は人を健康にする～地域へとつむぐ役割～」として、協会指定講座では地域社会における作業療法士の姿や、生活行為向上マネジメントについて学ぶことが出来た。日本作業療法士会会長中村春基先生の講座では、これからの作業療法士協会のありかたなど、今後の方向性について知ることが出来た。講演では、認知症の作業療法や、難病患者に対するコミュニケーションツールの取り入れ方など学ぶことができ、作業療法の役割についての視野が広がった。今回の2日間の研修会において、生涯教育ポイント4ポイントを取得した。

平成27年11月22日に聖路加国際大学にて第5回日本在宅看護学会に参加した。今年度のテーマは「学として考える在宅看護」として、参加者は約700名であった。本学会では、当院作業療法士1名が在宅介護者における介護負担感についての、研究成果の発表を行った。日頃から訪問看護等に携わっておられる看護師を中心に、現場からの意見を多く頂き、とても有意義な時間であった。また、セミナーなどを中心に本学会では魅力的なプログラムが多数あった。特に褥瘡ケアにおけるチーム医

療の重要性について、日本褥瘡学会在宅医療委員会委員長の塚田邦夫先生のお話が印象に残っている。当院でもリハビリテーション対象患者で在宅へ退院される方は多く、講演で学んだことを活かして日々の臨床に取り組みたいと意識をより高く持つことができた学会となった。本研修会に参加し、生涯教育ポイント 2 ポイントを取得した。

平成 28 年 3 月 19・20 日、東京都東小金井市の社会医学技術学院において開催された、シーティング・コンサルタント養成研修基礎過程（講義編）に参加した。今回の研修では、車椅子の理解や姿勢バイオメカニクスなどの基本的な知識から、医療機関におけるシーティングの実際、褥瘡管理の観点からのシーティング技術、シーティングに必要な身体機能評価の実際など、臨床に生かすことができる実践的な知識および技術を学習することができた。当院においては、近年モジュラー型車椅子が病棟に多く配置されるようになり、個々患者様の身体・能力・リスク管理に適した車椅子の設定が可能となっている。当院の車椅子の機能を最大限に活用し、適切な車椅子シーティングを実施することで、早期離床および褥瘡予防につながる可能性がある。よって、今回習得した知識・技術を積極的に活用し、患者様の回復や在宅復帰率の向上、質の高い療養環境やリハビリテーションの提供につなげていきたい。